

『新沢としひこさん来園!!
ミツル&りょうたさんとともに
コラボコンサート』

～濁流1, 5メートル 負けぬ虹(毎日新聞記事より)～

昨年の7月豪雨で氾濫した河川の濁流が1, 5メートルの高さまで達した小屋浦みみょう保育園の年長児のクラスの壁に、シンガーソングライターの新沢としひこさんの『にじ』の歌詞が剥がれ落ちないまま残っていました。7月7日(土)の夕涼み会で園児たちが歌う予定の曲でもあったようです。

「♪にじがそらにかかって」「♪きつとあしたはいいてんき」被災をした小屋浦みみょう保育園や多くの死者や行方不明者の出した小屋浦地区に、光が差し、再建を願って、前に進もうというエールにも思えると毎日新聞の記事は伝えていました。

記事を読んだ坂みみょう保育園の保護者有志が、自分達にも何かできることはないかと『にじ』の作詞、作曲者である新沢としひこさんの来園を熱望し、コンタクトをとっていただきました。小屋浦みみょう保育園の子ども達、保護者を励ましたいという思いは、新沢さんやミツル&りょうたさんにも伝わり、小屋浦、坂みみょう保育園合同の笑顔いっぱいコラボコンサートを12月25日に実現することができました。

小屋浦の園児、保護者、地域の皆様の安全安心な保育園の再建を求める願いが叶い、2020年の夏から秋頃の開園を目指し、建て替えをすることを微妙福祉会が決定いたしました。

災害を通して人と人とのつながりの温かさが、生きる希望につながることを確認しつつ、「願えば叶う・実行へ」の精神を保護者有志の皆様からも学ばせていただいたように思います。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力をいただいた、全ての皆様や関係各位に深くお礼申し上げます。 感謝



12月と1月生まれの御三方に

ハッピーバースデーのサプライズも

平成30年 1月の保育園だより

新年明けまして
おめでとうございます。

～行事を問い直し新しい形を探る～

ご家族揃って賑やかに新年を迎えられたことと思います。

職員一同、昨年7月豪雨災害の教訓を活かし、安心、安全な環境を整え、幸多き年になることを願いつつ、新年を迎えています。

保護者の皆様のご理解、ご協力があったこそ、あの夏の出来事を乗り越えることができ、子ども達の笑顔もたくさん見られるようになったことを実感しながら、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、今年度は子ども達と職員が対話しながら生活やあそびを進めることを大切に、0歳からの幼児教育『選択と集中、状況判断のできる子』というテーマを掲げ、毎日の保育を展開し、その延長線上にある年間の行事の形とはと、常に考えながら保育を進めてまいりました。

先月は幼児クラスの生活発表会がありました。新しい保育関連の法令の中には、行事を積極的に行うようにという記述はなく、「指導計画の作成上の留意事項」の中に、「行事は園生活の自然な流れの中で生活に変化と潤いを与え、園児が主体的に楽しく活動できるようにする。」という記述となっています。

好きなことを毎日のあそびの中で自らが発見し、あそびそのものを選択し、集中してあそび込むことを職員誰もが大切にしてきたことですが、その延長線上という行事の捉え方を職員自身が納得するまでに、ここ数年かかったように思います。

毎日が生活発表会の練習という考え方から、毎日のあそびからクラスや各年齢が明日のあそびを確認するという考え方の変化をするだけで、各クラスとも職員が子ども達との対話を重視し、思いを汲もうとすることができるようになったと感じています。

「生活発表会あるんだけど何してあそ

ぼうか?」「あれもいいね!」「こんなのもいいね!」「やってみたい!」と楽器あそび、劇あそびと始まりました。

しかし一人ひとりの子ども達の思いを汲み取り、取り組んでいこうとすると子ども達も職員も試行錯誤がいっぱいでした。一緒になって取り組んでいくうちに、子ども達の主体性も生まれ、子ども達だけでは難しいことには、職員もアイデアを出し、新たなお話あそびが生まれました。劇あそびへと変化する過程の中で、葛藤は新たな物を生み出し、人との関わりの中で大切な共感が生まれたような気がしました。

終了後のアンケートでは、年少さんの保護者からは「普段から先生とあんなふうに遊んでいるんだな」ということが想像できたし、楽しそうだった。」年中さんの保護者からは「自分達で考えたことをお友達と一緒に自由に表現し、やらされている感じがなく、楽しい生活発表会だった。」年長さんの保護者からは「劇あそびに利用する大道具がアートな生活とあそび展からのピタゴラスイッチに工夫された装置だったので、みんなで作り上げた感じがした。」「セリフを言わされている感じがなかった。」「保育園最後の発表会であったが、子ども達が自信に満ちていて、歌や合奏では感動した。」などのご感想が寄せられました。

行事の取り組み過程のちょっとした見直しをすることで、職員の方にも保育と行事の関係性が明確になり、行事によっても子ども達が生活に変化と潤いを与えられ、主体的に楽しく活動ができるという確信が持てたように思います。

今月は、日本ならではの伝統的なあそびや集団あそびにも目を向けながら、環境を整え、子ども達の声を聴き、新しい発想や挑戦を子ども達とともに楽しみ、柔軟に感じることで職員集団を目指したいと思っています。本年も保育園運営に、ご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

(園長 倉本弘子)

坂みみょう保育園

認定こども園移行保護者説明会

昨年12月中旬に広島県、坂町の行政機関に、認定こども園移行への本申請書の提出を終了し、平成31年度からは、『幼保連携型認定こども園・坂みみょうこども園』と名称が変更となります。

つきましては、下記の日程で保護者説明会を開催いたします。

今までと変わらないこと、または変更となることなど、微妙福祉会本部からの説明や保護者の皆様からのご質問にもお答えしたいと思いますので、急ではありますがたくさん保護者の皆様のご参加をお願いいたします。

日時：平成31年1月12日(土)
午前9時45分～10時45分
場所：坂みみょう保育園 2Fホール

※なお土曜日保育希望の方は通常のみで、説明会の間、在園児は職員が保育をいたします。

アデノウイルス!?

アデノウイルスとは、呼吸器、目、腸、泌尿器などに感染症を起こす原因ウイルスです。免疫がつきにくく、何回もかかることがあるので気をつけて下さい。12月末には、アデノウイルスによる咽頭結膜熱の発症報告もありました。登園には医師の登園届けが必要です。年明けには、インフルエンザAの発症も報告されております。いずれも手洗い、うがい、アルコール消毒、タオルの共有は避ける等、予防、対策に努め、感染拡大につながらないよう気をつけましょう。